

フェライト磁心を利用した送信機用広帯域変成器

1960年（昭和35）、フェライト磁心を利用し、周波数切り替えに伴う調整個所を減らすことのできる送信機用広帯域変成器が開発された。この新しい変成器には、二重同調式もしくは変成器の2次側に並列に蓄電器を接続する二つの方式が採用された。送信機のインピーダンス変換や平衡、不平衡変換のための回路として、フェライトコアを用いて短波帯全域をカバーする。このデバイスは周波数切り替え時の回路無調整化に大きく役立った。

出典：KDD 社史